

本テキストは、文部科学省による平成20年度「総合的な放課後対策推進のための調査研究」の委託を受けて作成されたものです。

RECREATION

“遊び”を通じて見守り・寄り添い、趣味を活かして豊かな経験を提供



子どもたちを応援する 遊びボランティアのススメ ～演習ノート～





はじめに

～演習ノートの活用法～

- 演習ノートは、皆さんがお使いの教科書とセットになっています。
- 講師の解説や実演（見本）などで気が付いたこと、心に響いた言葉や姿勢を、どんどん書き込んでください。
- 講習中に、自分が現場に立った時に「こうすればよいかもしれない」と浮かんだアイデアも、思いつくまま書き込んでください。
- グループでの話し合いや演習中に、自分ならこんな風に現場で活かしてみたいと感じたこと、この人のやり方のここが参考になると発見したことも、遠慮なく書き込んでください。
- 学生時代のノートではありませんので、講師の言葉などを正確に、書き残す必要ありません。ご自身にとってわかりやすく、振り返りやすいキーワード（短い言葉、単語）をメモすれば十分です（余裕があれば、講習修了後にメモを振り返りながら、付け加えを書き込むこともお勧めです）。
- 教科書には、皆さんが学習し、現場デビューし、そして、継続してボランティアとして活躍される時の参考資料という役目もあります。
皆さん自身の言葉でキーワードが記入された演習ノートは、きっと参考資料として教科書を紐解く時の索引として役立つはずです。
- 講習で体験した講師の姿や、受講生仲間のよい取り組みも、放課後子ども教室等での遊びの展開や子どもとの接し方で悩んだ時の参考資料になります。演習ノートを紐解いてそこに書かれているキーワードを目にされたとき、講師やお仲間の姿がよみがえるはずです。



1. 子どもの居場所

～創り、楽しみ、支える～ 4～5

2. 子どもを見守りサインをキャッチ

～子どもに寄り添い居場所感を提供～ 6～7

3. 遊びの活用のポイント・コツ

～子どもとの、心と体の距離を近づける～ 8～9

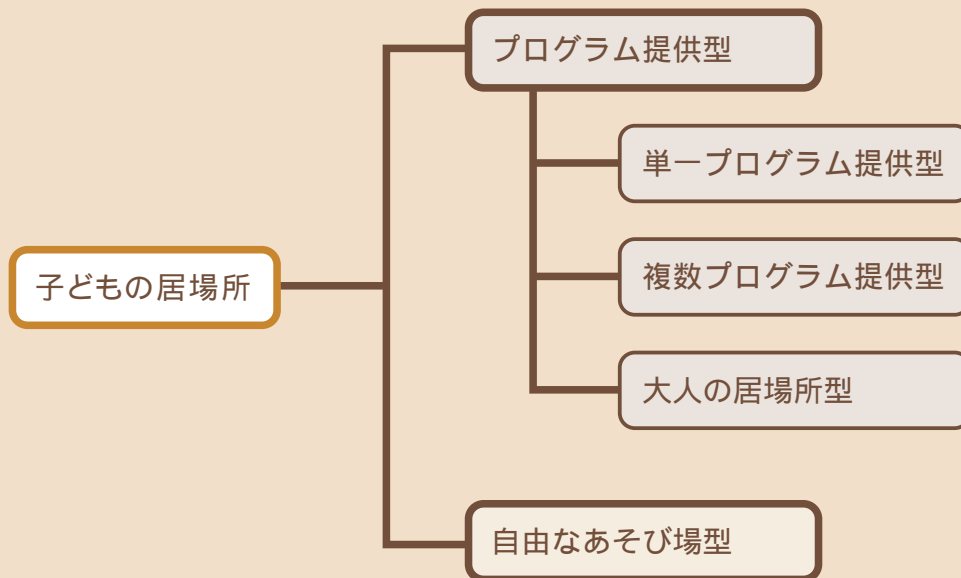
4. 体験メニューの考え方、創り方

～子どもが夢中になって遊ぶ～ 10～11

1

創り、楽しみ、支える 子どもの居場所

子どもの居場所とは



レクの長所を活かして大切な「何か」の獲得を支える

研修NOTE

起の段階(一緒に楽しむ仲間を確認)

一体感・安心感の共有

特徴

参加する子ども達と集まって、歌や歌あそび、ゲームを楽しむ。
一緒に楽しむ仲間の顔が見えてくる。一緒に楽しむスタッフへの親しみも湧いてくる。

承の段階(成功体験の喜び、効力感の共有)

主体性・協調性のバランスの良い刺激

特徴

スタッフのリードで、集団ゲーム等を楽しむ。
スタッフに子ども達全員がチャレンジ、子ども達がペアを組んで課題の挑戦、さらに4人組、6人組になって対抗戦…と笑顔を交わし合う範囲(コミュニケーションの輪)が広がっていく。
低学年のちびっ子と、中高学年のお兄ちゃん、お姉ちゃんが対抗したり、協力しあう

転の段階(様々な遊びを通した様々な体験)

大切な「何か」の獲得

特徴

モノづくりやスポーツ、伝承あそび、自然体験など、楽しさに満ちた様々なメニューの体験を楽しむ。

結の段階(また合おうねと楽しかった時間を振り返る)

一体感・安心感の共有

特徴

歌や歌あそび等を楽しみ、一緒に過ごした時間を共に振り返る。

2

子どもに寄り添い居場所感を提供 子どもを見守りサインをキャッチ

見守り・寄り添いボランティアの活躍像

子ども達の安心感、
居場所感の支え手役

子ども達の様子の
アンテナ役

遊び・楽しさを仲立ちに、
子ども達に安心感、居場所感を持って貰う

ポイント
1

こころとからだの
距離を知る

ポイント
2

遊びを仲立ちにして、
自然に、無理なく、
適当な距離に近づく

ポイント
3

楽しい会話で
認めているというサインを送る

研修NOTE



子ども達の様子をいろんな角度からとらえる

基本姿勢は、独りよがりの判断に注意。

判断は複数で、問題の解決は専門家へ

子どもをとらえる視点

1

発達

子どもをとらえる視点

2

仲間集団

子どもをとらえる視点

3

発達障害

3

子どもとの、心と体の距離を近づける 遊びの活用のポイント・コツ

仲立ちとしての遊び活用のポイント

身体と心の距離を近づける原理としての同調、共鳴

*身体と心の距離を近づける原理は、ボランティアが、子ども達のペースやテンポに反応してあわせていく（同調する、共鳴する）こと

*その仲立ちとして遊びを活用

遊び活用の原則(コツ)

同時発声・同時動作の合図(セーノの合図)

*「セーノ」などのかけ声をかけて、そろえたい声や動作の準備(予備動作)段階から、皆がタイミングをあわせられるように合図を送る。

*様々な遊びをはじめるタイミングで、あるいは、何かを一緒に行う時に、同時発声・同時動作の合図(= セーノの合図と言い換えても可)を使うことで、ボランティアと子ども達の声や動作が重なり合う。

*こうした重なり合いを、意図的に積み重ねることで、子ども達とボランティアの心と体の距離が近づいていく

研修NOTE

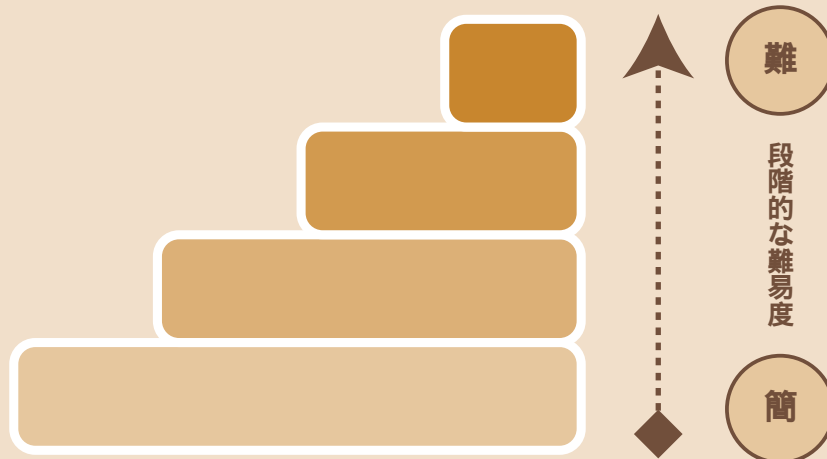
段階設定(ハードルの設定)

*低いハードル次第に高くなるハードルをひとつひとつ乗り越えて行く。そんな形で、一個の遊びを、簡単なことから難しいことへといういくつかの段階に分けて展開する考え方。

*子ども達とボランティアが、共に遊びを楽しむ中で、いくつものハードルを一緒に乗り越える。

*その度に小さな成功体験が共有され、積み重ねられていく。

*そして、子ども達とボランティアとの「同じ釜の飯を喰った仲」的な感覚が強化されていく。



4

子ども達が夢中になって遊ぶ 体験メニューの考え方、創り方

趣味を活かしたメニュー提供の意義

* 生の体験の不足

* それを楽しむことで、子ども達の自信ややる気が膨らむ経験

メニュー提供のポイント

* 自分は出来るんだという自信、喜び = 自己効力感が高まるような、
小さな成功体験を積み重ねられるようにメニューを提供

* 子ども達が自分で挑戦したいという気持ちをかきたてられる経験や、
ある程度の達成感を得られる課題に挑戦できる
技術や知識を獲得できる助走期間

研修NOTE



趣味などをもとに、子ども達向けのメニューを創ってみよう

ex 初心者の時に行った練習を、遊びにする
(練習メニューをゲーム風にアレンジ)

ex 次のような小さな成功体験を味わえるメニューづくり

<1>自分にとって(夢中になっている大人にとって)の楽しさは何かを考える。

<2>浮かび上がった楽しさと、子ども達にできそうなこと(年齢、発達に応じた筋力や手の器用さ、理解力等でもできそうなこと)は何かを考える。

<3>子ども達のできそうなことでの範囲で、<1>で分析した楽しさの一部を味わえるような遊びを考える。



編集／発行

**特定公益増進法人
財団法人 日本レクリエーション協会**

〒101-0061 東京都千代田区三崎町 2-20-7 水道橋西口会館

TEL: 03-3265-1852 FAX: 03-3265-1253

URL <http://www.recreation.or.jp>

E-MAIL soshiki@recreation.or.jp

